

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地				
専門学校 金沢リハビリテーションアカデミー	平成11年12月21日	狩山 信生	〒 921-8032 (住所) 石川県金沢市清川町2番10号 (電話) 076-280-8151				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地				
学校法人 センチュリー・カレッジ	平成11年12月21日	理事長 鏑 一郎	〒 921-8032 (住所) 石川県金沢市清川町2番10号 (電話) 076-280-8151				
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度		
医療	医療専門課程	理学療法学科	平成26年度	—	平成30年度		
学科の目的	本学科は、医療専門職として必要な知識や技術に加え、人間関係作りの規範となる礼節に重きを置いた教育を通して、地域社会の医療、福祉、保健に貢献できる理学療法士を養成することを目的とする。						
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	最短の3年間で「理学療法士国家試験」の受験資格を得ることができる。 1学年1クラスの少人数制。卒業生には「専門士」の称号が授与される。						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 3,120 単位時間 144 単位	1,650 単位時間 110 単位	120 単位時間 4 単位	1,350 単位時間 30 単位	0 単位時間 0 単位	0 単位時間 0 単位
	生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)	中退率		
120人	88人	0人	0%	10%			
就職等の状況	■卒業者数(C)		34	人			
	■就職希望者数(D)		28	人			
	■就職者数(E)		28	人			
	■地元就職者数(F)		21	人			
	■就職率(E/D)		100	%			
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		75	%			
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		82	%			
	■進学者数		0	人			
	■その他		・国家試験不合格による資格取得希望者(再受験予定) 6人 (令和5年度卒業者に関する令和6年5月1日時点の情報)				
	■主な就職先、業界等		病院、診療所、介護老人保健施設、訪問リハビリ、医療福祉業界				
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 一般社団法人リハビリテーション教育評価機構 受審年月: 令和1年12月19日 評価結果を掲載したホームページURL http://www.century.ac.jp/						
当該学科のホームページURL	http://www.century.ac.jp/						
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)						
	総授業時数		3,120 単位時間				
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		900 単位時間					
うち企業等と連携した演習の授業時数		0 単位時間					
うち必修授業時数		900 単位時間					
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		900 単位時間					
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		0 単位時間					
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		0 単位時間					
(B: 単位数による算定)							
総単位数		20 単位					
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数		20 単位					
うち企業等と連携した演習の単位数		0 単位					
うち必修単位数		20 単位					
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数		20 単位					
うち企業等と連携した必修の演習の単位数		0 単位					
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)		0 単位					
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)		1人				
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)		1人				
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0人				
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)		4人				
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)		0人				
	計		6人				
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		6人					

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

学校法人センチュリー・カレッジが設置する専門学校金沢リハビリテーションアカデミーの教育課程編成は、厚生労働省の理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則を基本として構成している。

理学療法学科では、「基礎理学療法学臨床実習」、「理学療法評価学臨床実習」、「理学療法総合臨床実習Ⅰ」、「理学療法総合臨床実習Ⅱ」、「地域理学療法学臨床実習」を連携企業(医療機関や介護老人保健施設)において臨地実習を行っており、学内講義においては連携企業の医師や理学療法士等が外部講師として複数の授業を行っている。

また、連携企業の臨床実習指導者を招いた「臨床実習指導者会議」(毎年度1回開催)の意見を、教育課程の編成並びに講義内容や手法の検討に活用している。さらに教育課程編成委員会(毎年度2回開催)は、社会のニーズに即した教育課程や医療関連業界で必要とされる最新の知識・技術を教育内容に反映させるために設置している。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

専門学校金沢リハビリテーションアカデミーの教育課程編成委員会は、実践的かつ専門的な職業教育を実践するために、関係施設等と連携して必要な情報を収集し、分析した結果を教育課程の編成に活用することを目的としている。

委員会の委員は、公益社団法人石川県理学療法士会の役員、公益社団法人石川県作業療法士会の役員、連携企業(医療機関)の役職員、その他、校長が指名する教職員で構成している。教育課程編成委員会で得られた意見は各学科で検討され、学内の教務委員会を経て教員会議で決定される。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
北谷 正浩	公益社団法人石川県理学療法士会 会長	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	①
東川 哲朗	公益社団法人石川県作業療法士会 会長	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	①
山崎 隆幸	独立行政法人地域医療機能推進機構 金沢病院	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	③
西田 好克	医療法人社団和楽仁 芳珠記念病院	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	③
田福 智幸	医療法人社団慈豊会 久藤総合病院	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	③
中森 清孝	医療法人社団長久会 加賀のぞみ園	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	③
合歡垣 紗耶香	医療法人社団和楽仁 芳珠記念病院	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	③
狩山 信生	専門学校金沢リハビリテーションアカデミー 校長	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	—
山本 達也	専門学校金沢リハビリテーションアカデミー 局長	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	—
曾山 薫	専門学校金沢リハビリテーションアカデミー 理学療法学科 学科長	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	—
種本 美雪	専門学校金沢リハビリテーションアカデミー 副校長 兼 作業療法学科 学科長	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

教育課程編成委員会規程 第8条より編成委員会を開催する時期は、原則として毎年度 2回 6月と10月としている。また臨床実習指導者会議を毎年度 年1回開催している。

(開催日時(実績))

教育課程編成委員会 令和5年 5月31日 18:00～19:30、 10月20日 18:30～20:30
臨床実習指導者会議 令和5年 11月18日 14:00～16:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

①指定規則改正により、新たに講義内容としてリハビリテーションにおける「栄養」「予防」に関する内容が追加された。委員の所属が病院・地域理学療法分野であり、それぞれの視点で必要とされる内容についてご意見をいただいた。また、理学療法を行うにあたって両分野で求められることを理解できるような進め方について提言をいただいた。これに基づき、「専門基礎分野」「理学療法治療学」「地域理学療法学」各学習領域において講義に組み込むことで、関連付けて考えることができるよう講義構成を行った。

②臨床実習において新たに指定された「自己学習」の行い方と「臨床推論」についての考え方・指導方法について臨床の立場での知見を伺い、当校の指導・教授方法についてご意見をいただいた。どちらについても臨床現場においてとらえ方や指導方法が定まっていないのが現状であることを伺うことができた。委員からは、当校の対応について、思考力を養う方法としては一定の評価をいただくことができた。今後は、文章化することで臨床現場においても求められる各種書類作成能力につなげる工夫についてご提案いただいたので、講義においても検討していく。

③臨床実習に導入している「情意領域の評価」にルーブリックを導入することで、段階付けを明確にし、学生にもわかりやすいようにする方法について提案した。この変更が、学生の成長を把握するうえで有効か、また、評価にあたって指導者の負担にならないかについて伺い、好意的なご意見をいただいた。今年度の臨床実習指導者会議で提案し、導入するとともに、今後も現場のご意見をいただきながら検討を重ねていく。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

専門学校金沢リハビリテーションアカデミーの「臨床実習の手引き」において、臨地実習の趣旨は学生が臨床実習での経験を通し、目指している専門職の具体像を作り上げ、勉学するための目標にすること、ならびに将来の職場となる病院・施設の機能や多職種の知識を得ることにあります。

臨地実習では専門的な知識、治療技術の修得だけではなく、スタッフとのコミュニケーション、患者や利用者の方々との信頼関係をつくることなど総合的な実践力を身に着けることを目的としています。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

以下の臨地実習を連携企業(医療機関・施設)において実施している。

本校理学療法学科では、基礎理学療法学臨床実習(45時間)、理学療法評価学臨床実習(180時間)、理学療法総合臨床実習Ⅰ(315時間)、理学療法総合臨床実習Ⅱ(315時間)、地域理学療法学臨床実習(45時間)を教育課程において設定し、学生、臨床実習指導者、学校の三者で連絡を密にとりながら、連携した実習を以下の目的で行っている。

- 1) 規則を守って責任を持った行動をとり、職業人としての人格、態度を身に着ける。
- 2) 患者・職員に対し節度ある態度で接し、適切な人間関係を築くことができるようになる。
- 3) 医療スタッフの一員として理学療法士の役割・チームアプローチの必要性を学び、適切な行動をとる。
- 4) 学校で学んだ知識・技術を臨床場面で適応する。
- 5) 適切な記録・報告ができる。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
基礎理学療法学 臨床実習	3.【校外】企業内実習 (4に該当するものを除く。)	理学療法士の対象者への対応を見学し、社会人としての態度と理学療法士としての基本的な技術を学ぶ。そして、今後の専門知識や技術の習得につなげていく。	金沢医科大学病院、金沢赤十字病院、JCHO金沢病院、心臓血管センター金沢循環器病院、済生会金沢病院 総数 60 施設
理学療法評価学 臨床実習	3.【校外】企業内実習 (4に該当するものを除く。)	臨床実習指導者の指導・監督の下で「見学」「協同参加」「実施」の流れを重視し、理学療法における検査・測定の経験を積む。	金沢医科大学病院、済生会金沢病院、整形外科米澤病院、金沢赤十字病院、芳珠記念病院 総数 52 施設
理学療法総合 臨床実習Ⅰ	3.【校外】企業内実習 (4に該当するものを除く。)	臨床実習指導者の指導・監督の下で「見学」「協同参加」「実施」の流れを重視し、理学療法評価・障害像の把握・治療までを総合的に経験する。	加賀市医療センター、金沢医科大学病院、金沢赤十字病院、済生会金沢病院、城北病院 総数 54 施設
理学療法 総合臨床実習Ⅱ	3.【校外】企業内実習 (4に該当するものを除く。)	臨床実習指導者の指導・監督の下で「見学」「協同参加」「実施」の流れを重視し、理学療法評価・障害像の把握・治療までを総合的に経験する。	石川県立中央病院、金沢医科大学病院、金沢こども医療福祉センター、金沢市立病院、済生会金沢病院 総数 50 施設

地域理学療法臨床実習	3.【校外】企業内実習(4に該当するものを除く。)	通所リハビリテーションや訪問リハビリテーションでの実習を通し、地域リハビリテーションに関する制度を学び、理学療法士が担う役割を理解する。	介護老人保健施設陽翠の里、金沢病院附属介護老人保健施設、加賀温泉リハビリクリニック、レイクサイド木場、老人保健施設みしま野苑一穂 総数 23 施設
------------	---------------------------	--	---

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

「教職員研修等に係る規程」により、教員が現在担当している講義さらに将来担当する事が予想される講義・実務に係る知識または技能を修得させ、教員の能力開発及び資質の向上を図ることを基本方針としている。

研修等の種別は実習技術の修得・向上、専攻分野の専門性向上を目的とする研修・研究、学術的な発展を目標とする学会への参加・発表、授業および学生の指導力・教育技法等の進展を目的とした研修・研究があり、外部機関への参加、連携する企業等への派遣、講師を招いて受講する学内研修によって実施する。教育課程編成委員会、連携している企業等の意見をふまえ、研修計画に基づき組織的に行っている。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

対象	研修名・内容	期間	連携企業(場所)
理学療法学科 教員	呼吸アセスメントと離床のリスク管理	R5.4.13	日本離床学会(Web開催)
理学療法学科 教員	嚥下姿勢の選択とベストなポジショニング	R5.5.21	日本離床学会(Web開催)
理学療法学科 教員	第7回金沢大学・関西医療大学合同セミナー	R5.5.22	金沢大学浅井教室・関西医療大学鈴木教室(Web開催)
理学療法学科 教員	理学療法士講習会「子どもの環境設定と運動療法」	R5.6.24	石川県理学療法士会(Web開催)
理学療法学科 教員	「燃ゆる感動かごしま国」サッカー少年女子特別強化事業(北信越国体)石川県選抜トレーナー帯同	R5.6月-8月	石川県サッカー協会(石川県、新潟県)
管理者(理学療法士)	第57回日本理学療法学会学術研修大会 inとやま「臨床技能の伝承～プロフェッショナルリズムの追求～」	R5.7/9-7/10	日本理学療法士協会(Web開催)
理学療法学科 教員	第18回小児系在宅理学療法研究会セミナー「小児系リハビリテーション職種が担う、これからの地域支援」	R5.8.20	小児系在宅理学療法研究会(Web開催)
管理者(理学療法士)	京都大学運動機能セミナー「歩行のリハビリテーションのための運動制御と運動学習」	R5.8.27	京都大学運動機能研究会(Web開催)
管理者(理学療法士)	学術局研修会「エコーを活用した膝内側部・外側部の診断と治療」	R5.9.14	石川県理学療法士会学術局(石川県)
管理者(理学療法士)、理学療法学科 教員	第39回東海北陸理学療法学会学術大会「公衆衛生的理学療法の発展～ジェネラリスト育成と専門科の深化～」	R5.9/30-10/1	東海北陸ブロック理学療法士協議会(石川県)
理学療法学科 教員	令和5年度石川県リハビリテーション専門職研修会「共に学ぼう見つけよう障害のある子どもたちの可能性」	R5.10.5	石川県リハビリテーションセンター(Web開催)
理学療法学科 教員	「燃ゆる感動かごしま国」サッカー競技成年男子トレーナー帯同	R5.10/10-10/14	石川県サッカー協会(鹿児島県)
管理者(理学療法士)、理学療法学科 教員	学術局研修会「脳卒中片麻痺の歩行障害に対する理学療法～歩行分析と目標設定の考え方～」	R5.10.26	石川県理学療法士会学術局(Web開催)
理学療法学科 教員	令和5年度保育所看護師保育士研修「気になるお子さんについて」	R5.11.7	金沢市医師会(石川県・Web開催)
管理者(理学療法士)	学術局研修会「循環器理学療法～理学療法士が覚えておくべき循環器疾患の診方～」	R5.11.30	石川県理学療法士会学術局(Web開催)
管理者(理学療法士)	学術局研修会「股関節機能障害に対する理学療法戦略」	R5.12.14	石川県理学療法士会学術局(Web開催)
理学療法学科 教員	令和5年度「大阪府障がい児等療育支援事業(主に重症心身障がい児)」について 専門相談会	R6.1.18	四天王寺和らぎ苑(Web開催)
理学療法学科 教員	2023年度日本ボース研究会 北陸ブロック小児研修会「子どもの手の発達と遊び」	R6.2/10-2/11	日本ボース研究会 北陸ブロック小児部門(石川県)

理学療法学科 教員	特別支援学校の医療等外部専門家との連携協議会	R6.2.20	石川県教育委員会(Web開催)
理学療法学科 教員	JFAアスレティックトレーナーセミナー	R6.3月	日本サッカー協会(Web開催)
理学療法学科 教員	スポーツ救命ライセンス講習会	R6.3.2	日本アスリートライフサポート協会(石川県)

②指導力の修得・向上のための研修等

対象	研修名・内容	期間	連携企業(場所)
理学療法学科 教員	金沢医科大学大学院医学研究学 生命医学専攻 健康生態医学 医学教育学(博士課程)	R5.4月-R6.3月	金沢医科大学大学院(石川県)
理学療法学科 教員	金沢医科大学「共用試験 Post-CC OSCE」に係る模擬患者	R5.7.21	金沢医科大学(石川県)
理学療法学科 教員	第55回日本医学教育学会大会「医療者教育の光と影、そして、未来へ！」	R5.7/28-7/29	医学教育学会大会(長崎県)
管理者(理学療法士)	全国専修学校各種学校総連合会中部七県ブロック協議会	R5.8.24	全国リハビリテーション学校協会(石川県)
理学療法学科 教員	金沢医科大学「診療参加型臨床実習入門」医療面接に係る模擬患者	R6.1/24、1/26、1/29	金沢医科大学(石川県)
管理者(理学療法士)、理学療法学科 教員	全国リハビリテーション学校協会 北陸ブロック研修会「未来の学校教育に期待すること」	R6.2.10	全国リハビリテーション学校協会北陸ブロック(Web開催)

(3) 研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

対象	研修名・内容	期間	連携企業(場所)
理学療法学科 教員	「SAGA2024国民スポーツ大会」サッカー少年女子特別強化事業(北信越国体)石川県選抜トレーナー帯同	R6.4月-9月	石川県サッカー協会(石川県等)
理学療法学科 教員	理学療法士講習会「子どもの環境設定と運動療法」	R6.6/24-6/25	石川県理学療法士会(石川県)
管理者(理学療法士)	第59回日本理学療法学会学術研修大会「技術がつなぐ未来への進歩～理学療法士としての価値軸を育む～」	R6.6/29-6/30	日本理学療法士協会(東京都)
理学療法学科 教員	第40回東海北陸理学療法学会学術大会	R6.9/7-9/8	東海北陸ブロック理学療法士協議会(岐阜県)
理学療法学科 教員	第11回日本スポーツ理学療法学会学術大会「多様性とスポーツ理学療法」	R7.1/25-1/26	日本スポーツ理学療法学会(神奈川県)
理学療法学科 教員	JFAアスレティックトレーナーセミナー	R7.3月	日本サッカー協会(Web開催)
理学療法学科 教員	金沢大学・関西医療大学合同セミナー	未定	金沢大学浅井教室・関西医療大学鈴木教室(未定)
理学療法学科 教員	日本ボバース研究会 北陸ブロック研修会(小児部門)	未定	日本ボバース研究会 北陸ブロック小児部門(未定)
理学療法学科 教員	日本ボバース研究会 北陸ブロック研修会	未定	日本ボバース研究会 北陸ブロック(未定)
理学療法学科 教員	重症心身障害理学療法研究会セミナー	未定	重症心身障害理学療法研究会(未定)
理学療法学科 教員	物理療法学会	未定	日本物理療法学会(未定)
理学療法学科 教員	呼吸療法セミナー	未定	日本呼吸理学療法学会(未定)

②指導力の修得・向上のための研修等

対象	研修名・内容	期間	連携企業(場所)
理学療法学科 教員	金沢医科大学Post-CC-OSCE模擬患者	R6.7月	金沢医科大学(石川県)
管理者(理学療法士)	第37回教育研究大会・教員研修会「ナラティブと最先端医療教育の融合」	R6.8/30-8/31	全国リハビリテーション学校協会(広島県)
理学療法学科 教員	金沢医科大学Pre-CC-OSCE模擬患者	R7.1月	金沢医科大学(石川県)
理学療法学科 教員	全国リハビリテーション学校協会北陸ブロック研修会	R7.2月	全国リハビリテーション学校協会北陸ブロック(Web開催)

理学療法学科 教員	理学療法士作業療法士専任教員養成講習会	未定	全国リハビリテーション学校協会(未定)
-----------	---------------------	----	---------------------

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価は卒業生、保護者、本校ならびに理学・作業療法士に関連する企業等の企業等委員で構成する学校関係者評価委員会によって、自己評価結果をもとに行う。学校関係者評価は、自己評価の客観性・透明性を高めるとともに、本校の課題の共有を図り、教育活動の質の向上と学校運営の改善に活かすことを基本方針とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの 評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 学校の理念・育成人材像・教育目標は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか) 2) 医療福祉業界の要望・意見等を踏まえた学校の将来構想を策定しているか 3) 学校の理念・育成人材像・教育目標などが学生・保護者等に周知されているか 4) 育成人材像・教育目標は、医療福祉業界のニーズに向けて方向づけられているか
(2) 学校運営	<ol style="list-style-type: none"> 1) 医療福祉分野の職業教育を念頭においた運営方針・事業計画が策定されているか 2) 意思決定機能、指示命令系統は組織機能図において明確化されているか 3) 前項(意思決定機能、指示命令系統)は有効に機能しているか 4) 就業規則は整備され、教職員が常に確認できるようになっているか 5) 人事、給与に関する規程等は整備されているか 6) 学校運営に関する情報公開が適切になされているか 7) 組織体制の整備、情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3) 教育活動	<ol style="list-style-type: none"> 1) 学校の理念・育成人材像・教育目標に沿った教育課程(カリキュラム)が体系的に編成されているか 2) 学科の修業年限に対応した教育到達レベルを明確し、学習時間の確保はされているか 3) 医療福祉分野の病院施設や団体との連携により、実践的な職業教育の視点にたった教育課程(カリキュラム)の編成・見直し等が行われているか 4) 医療福祉分野の病院施設における実践的な職業教育(実習等)が教育課程(カリキュラム)において体系的に位置づけられているか 5) 実習や講義等を委託する場合、教育目標及び教育到達レベルを明確にしているか、情報共有を図っているか 6) 授業評価の実施体制を整備し、定期的に評価を実施しているか 7) 授業評価結果に基づき、目標設定および授業改善が行われているか 8) 外部(卒業生、保護者、医療福祉分野の病院施設や団体、地域社会等)からの評価の体制を整備し、定期的に評価を実施しているか(アンケート、訪問・会議によるヒアリング等) 9) 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか 10) 資格取得に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置付けはあるか 11) 学校の理念・育成人材像・教育目標の達成に向けて計画的に人材(専任教員・非常勤講師)を確保しているか 12) 医療福祉分野の病院施設や団体との連携において、要件を備えた人材(非常勤講師)を確保しているか 13) 教職員の専門的知識・技能等を修得・向上のための組織的な取組み(講座・研修の受講、資格取得支援、各種学会・会議への参加等)はあるか 14) 教員の教授力(インストラクションスキル)を向上させる組織的な取組み(講座・研修の受講、専門家による指導等)はあるか
(4) 学修成果	<ol style="list-style-type: none"> 1) 就職率の目標値を設定し、具体的な対策を実施しているか 2) 資格取得率の目標値を設定し、具体的な対策を実施しているか 3) 退学率を把握し、その上で低減に向けた具体的な対策を実施しているか 4) 卒業生のキャリア形成(社会的な活躍や評価)を把握し、学校の教育活動の改善に活用しているか

(5) 学生支援	<ol style="list-style-type: none"> 1) 学生の進路・就職に関する体制(運営組織、制度)は整備され、有効に機能しているか 2) 学生相談に関する体制(運営組織、面談記録、定期的な実施)は整備されているか 3) 学生の経済的支援に関する体制(奨学金制度、減免制度)は整備され、有効に機能しているか 4) 学生の健康管理に関する体制(運営組織、健康診断の実施)は整備され、有効に機能しているか 5) 学生主体の課外活動(学生会活動、ボランティア活動、クラブ活動等)を奨励・支援する体制はあるか 6) 前項(課外活動支援に関する組織体制)は有効に機能しているか 7) 学校生活指導・勉学指導への支援は行われているか 8) 保護者へ学校情報の提供や面談を行い、適切に連携しているか (ホームページ、保護者報告会等) 9) 卒業生のフォローアップ体制はあるか (卒後研修、同窓会組織、1年後訪問、ホームページ等)
(6) 教育環境	<ol style="list-style-type: none"> 1) 学校施設・設備は定期的に管理・点検され教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか 2) 教育上必要な図書が系統的に整備されているか 3) 実習施設や国内外の研修等は整備されているか 4) 防災・安全対策(非常時の避難、誘導対策面、危機管理マニュアルの周知)は整備されているか
(7) 学生の受入れ募集	<ol style="list-style-type: none"> 1) 学生の募集活動において、教育成果・実績等は正確に伝えられているか 2) 入学志願者の問合せ・相談に対する体制が整備され、情報提供(育成人材像、資格、学費・教材費、選抜方法)は適正にされているか 3) 学納金は妥当なものとなっているか 4) 入学辞退者の授業料に関して適正な扱いを行っているか 5) 入学予定者への入学前課題等の学習指導を実施しているか 6) 入学予定者に対してオリエンテーションを実施し、学校生活のための支援をしているか
(8) 財務	<ol style="list-style-type: none"> 1) 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 2) 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか、また定期的に確認しているか 3) 財務について会計監査が適正に行われているか 4) 財務情報公開の体制を整備し、適正に運用しているか
(9) 法令等の遵守	<ol style="list-style-type: none"> 1) 法令、専修学校設置基準の遵守と適正な運営がなされているか 2) 学生および職員の個人情報について閲覧権限等の設定がされ、個人情報保護の対策が講じられているか 3) 文書管理規程、文書管理リスト(ファイル管理簿)、決裁規程(文書処理規程)、公印管理規程が文書化されているか 4) 自己点検・評価の体制を整備し、定期的に評価を実施しているか 5) 自己点検・評価結果に基づき、目標設定および改善策に取り組んでいるか 6) 自己点検・評価結果を公表しているか 7) 学校関係者評価の体制を整備し、定期的に評価を実施しているか 8) 学校関係者評価結果に基づき、目標設定および改善策に取り組んでいるか 9) 学校関係者評価結果を公表しているか
(10) 社会貢献・地域貢献	<ol style="list-style-type: none"> 1) 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか 2) 地域に対する生涯学習事業(公開講座、教職員の出張講座)の提供や教育訓練(公共職業訓練を含む)の受託等を実施しているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

委員会において、学生個々の問題による学習意欲の低下、就労意識を持ちにくいことなど、結果的に退学につながってしまう学生に対し、どのように支援を行うか様々な提言をいただいている。今年度、学生支援を行うため、スクールカウンセラーを配置し(週一回来校)、教員もアドバイスをいただきながら、学生対応を行うことができた。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
松崎 充意	一般財団法人 石川県予防医学協会	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	企業
長谷田 敦志	公立南砺中央病院	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	卒業生
田中 茉美	医療法人社団博友会 金沢西病院	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	卒業生
野倉 克利	医療法人積仁会 岡部病院	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	卒業生
酒井 安代		令和5年5月1日～ 令和7年3月31日(1年10か月)	保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
 (例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <http://www.century.ac.jp>

公表時期: 令和 6年 9月

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

「専門学校における情報提供等への取組みに関するガイドライン」に基づき、学校運営の状況、本校の教育方針や活動内容等を広く情報提供することによって、社会に対する説明責任を果たすとともに、保護者、連携企業等の学校関係者の理解と信頼を深めて教育の質の確保と向上につなげていくことを基本方針としている。

具体的には、ホームページによる情報提供の他、連携企業(医療機関)の実習指導者を集めた「臨床実習指導者会議」の開催(年1回)による相互情報交換、学校関係者評価委員会および教育課程編成委員会を通じた提言を教育内容・方法の改善に活かしている。

(2)「専門学校における情報提供等への取組みに関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	・学校概要 ・学校の沿革 ・学校の教育目標・人材育成像
(2)各学科等の教育	・収容定員 ・入学者数、在学学生数 ・卒業者数 ・カリキュラム、シラバス、時間割 ・実務経験のある教員等による授業科目一覧 ・進級、卒業要件 ・国家試験合格率
(3)教職員	・教職員数
(4)キャリア教育・実践的職業教育	・実習・実技の取組み状況 ・就職支援等への取組み支援 ・資格取得実績 ・就職実績
(5)様々な教育活動・教育環境	・学校行事への取組状況 ・課外活動
(6)学生の生活支援	・進級率、退学率 ・退学理由 ・保護者との連携
(7)学生納付金・修学支援	・活用できる奨学金の種類への提示 ・学生納付金の取扱い
(8)学校の財務	・事業報告書 ・資金収支決算書・貸借対照表
(9)学校評価	・自己評価・学校関係者評価 ・学校関係者評価委員会 ・教育課程編成委員会 ・評価結果を踏まえた改善方策
(10)国際連携の状況	・外国の学校等との交流状況
(11)その他	・学則、学生便覧

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <http://www.century.ac.jp>

公表時期: 令和 6年 9月

授業科目等の概要

(医療専門課程 理学療法学科) 2024年度																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			情報科学	情報についてのマナーを知り、情報を活用するために必要な情報収集と判断・処理する力、情報をまとめる力 (Word・Power Point・Excelを用いた作成)、情報を発信する力を身につける。また、レポート作成方法についても学ぶ。	1前	30	2	○			○		○		
2	○			心理学	将来、対人援助職につく上で必要となる心理学的知見と臨床心理学的技法を学ぶ。	1後	30	2	○			○				○
3	○			コミュニケーション学	社会人・医療人として「人と生きる」ために必要不可欠なコミュニケーションスキルについて学ぶ。チーム医療を実践するための視野の拡大と洞察力、傾聴・共感する能力、相手の立場で物事を推察する能力、継続しやり遂げる能力等を身につける。	1前	30	2	○			○				○
4	○			ライフスポーツ演習	障がいのある方たちがレクリエーションとして楽しみ、時には、アスリートとして競い合う様々な「スポーツ」があることを知り、理学療法士としての支援を学ぶ。	1前	30	1		○		○		○	○	
5	○			生物学	細胞から個体へとつながりをもって学び、ヒトの体の構造・働きと病態との関わりを理解する	1前	30	2	○			○				○
6	○			物理学	私たちの身の回りに存在する「なぜ？」に対して、物理学的に理解し、その学習を通して作業療法士として必要な「基礎知識」と「考える力と伝える力」の習得を目的とする。	1後	30	2	○			○				○
7	○			英語	This course will provide students with preparatory skills for everyday medical and social communication in English It will be achieved through self-expression by the students in a classroom atmosphere	1前	30	2	○			○				○
8	○			基礎セミナーⅠ	職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な「社会人基礎力」について理解する。資格取得を目指す上での「情意」を理解し、日々の行動として定着化することを重点目標とする	1前	30	2	○			○			○	
9	○			基礎セミナーⅡ	社会人・医療人としての「理学療法士」に求められる力について考えを深め、自身の将来像を形成していく。	1後	30	2	○			○			○	

(医療専門課程 理学療法学科) 2024年度																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
10	○			キャリアデザインⅠ	社会人として身に着けるべき所作・マナーや行動の際に求められることを理解し、実践できるようになる。そして「自己分析」を通して行動の目標を定め、自分の「キャリアデザイン」につなげる。	2前	30	2	○			○		○		
11	○			キャリアデザインⅡ	自分の「理学療法士」としてのキャリアデザインを行い、実現するために具体的に行動し準備を進める。	2後	30	2	○			○		○		
12	○			解剖学Ⅰ	解剖学は、人体の形状・構造を研究する学問であり、医学の基礎である。この講義では、理学療法士が治療対象とする運動に関与する骨学・関節学・筋学について学ぶ。	1前	30	2	○			○			○	
13	○			解剖学Ⅱ	解剖学は、人体の形状・構造を研究する学問であり、医学の基礎である。この講義では運動を行い身体を維持するための器官である循環器・脈管・呼吸器・消化器について学ぶ。	1前	30	2	○			○			○	
14	○			解剖学演習	骨学・循環器・脈管・消化器について学んだことを確認し、理解を深める。体表から骨指標が触知できるようになり、評価につなげる力を身につける。	1前	30	1		○		○			○	
15	○			解剖学実習	解剖学は、人体の形状・構造を研究する学問であり、医学の基礎である。理学療法士が治療対象とする運動に関与する筋学、運動や身体全体の機能を調整する神経学を学ぶ。	1後	45	1	△			○	○			○
16	○			機能解剖演習	各部位での骨格筋を確認し、四肢・体幹の運動を三次元的視点で理解する。運動機能評価の基本となる骨格筋の作用を理解する。	2前	30	1		○		○			○	
17	○			生理学Ⅰ	身体を構成する組織と器官の構造と機能について、循環器系、呼吸器系、消化器系、内分泌系について学ぶ。ヒトの生体機能の仕組みについて理解を深める。	1前	30	2	○			○			○	
18	○			生理学Ⅱ	生理学は生体機能のしくみを対象としており、本講義では、神経系、運動系、感覚系について概説し、病態や障害、理学療法に必要な評価・治療を理解する一助として、理解を深める。	1後	30	2	○			○				○
19	○			生理学実習	主に神経生理学と呼吸・循環生理学の基礎的現象についての理解を深め、理学療法士が行う治療手段の理論的背景を学ぶ。また実験・解析装置の仕組みを理解し活用する。	2前	45	1			○	○			○	

(医療専門課程 理学療法学科) 2024年度																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
20	○			運動学Ⅰ	身体における関節構造を理解し、運動を骨・関節および筋活動の立場から捉え、さまざまな運動機能障害の理学療法評価や治療の基礎的知識として学ぶ。	1後	30	2	○			○		○		
21	○			運動学Ⅱ	身体における各関節運動をもとに歩行や姿勢への影響について学ぶ。	2前	30	2	○			○		○		
22	○			運動学実習	身体における基本的な動作および歩行について学習し動作の観察や分析を学ぶ。また、実習を通し、筋、関節運動、姿勢の特徴について理解を深める。	2後	45	1			○	○		○		
23	○			発達障害学	人間の様々な機能の発達について理解を深め、小児疾患に対する理学療法の基礎を学ぶ。	1後	30	2	○			○		○		
24	○			身体機能学Ⅰ	身体を構成する細胞・組織を器官系に大別し、本講義では、骨格系、呼吸器系、循環器系、消化器系の構造と機能について学ぶ。	1前	30	2	○			○		○		
25	○			身体機能学Ⅱ	身体を構成する細胞・組織を器官系に大別し、本講義では、神経系の構造と機能について学ぶ。	1後	30	2	○			○		○		
26	○			病理学	理学療法に必要な疾患の原因、病変、経過、転帰などの本質を理解するための知識を学ぶ。	2前	30	2	○			○			○	
27	○			精神障害学	こころの病気についての特徴について学び、理学療法の評価・治療のための知識・理解を深める。	2後	30	2	○			○			○	
28	○			神経内科障害学	神経疾患とは中枢神経（脳・脊髄）、末梢神経および筋の疾患を総称する。これらの疾患は運動機能を障害するため、リハビリテーションが必要となる。この講義では、脳機能の局在、意識とその障害について理解し、検査・治療（薬物治療を含む）について学ぶ。	2前	30	2	○			○			○	
29	○			骨関節障害学	リハビリテーションを行う上で重要な整形外科分野の疾患に関し、最近のトピックスや診察（画像診断を含む）・治療（手術、薬物治療など）の現状を交えながら学習する。	2前	30	2	○			○			○	
30	○			医学・医療概説	日本における医学の構成と医療の構成を整理し、それらの実践に不可欠である医学倫理と現行の保険制度を理解する。本校の各専門基礎分野講義の理解を深めるために最低限の基礎生理学を学ぶ。また、生命維持・活動のための栄養の基礎知識、予防について学ぶ。	1後	30	2	○			○			○	

(医療専門課程 理学療法学科) 2024年度																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
31	○			外科系障害学	理学療法の対象となる代表的な外科的治療対象となる疾患の病態を知り、どのような医学的検査（画像診断を含む）・治療（薬物療法を含む）が行われているかを学習する。そして、各疾患に必要なリハビリテーション医療についての理解を深める。	2前	30	2	○			○			○	
32	○			内科系障害学	成人・小児の内科的疾患の病態生理や症状、検査（画像診断を含む）・治療（薬物療法を含む）を学び、各疾患に対し理学療法を行えるよう、そして、内科的疾患を合併する対象者への安全で効果的な対応につなげる。	2後	30	2	○			○			○	
33	○			身体機能障害学Ⅰ	主な治療対象となる疾患について、病因、病態生理、症候、評価を学ぶ。	2前	30	2	○			○			○	
34	○			身体機能障害学Ⅱ	主な治療対象となる疾患について、病因、病態生理、症候、評価を学ぶ。	2後	30	2	○			○			○	
35	○			リハビリテーション概論	リハビリテーションの起源、歴史を学び、現在の位置付けを理解する。また、対象となる疾患や障害の基礎と具体的な関わりを知り、自立支援について理解する。	1前	30	2	○			○			○	○
36	○			リハビリテーション医学	リハビリテーションの理念に沿ったリハビリテーション医療の全体を把握するとともに、各専門職の役割とチームアプローチの重要性を学ぶ。さらに、リハビリテーション医療が治療対象とする様々な障害の病態を理解し、その評価と治療についての知識を深める。	1後	30	2	○			○			○	
37	○			理学療法概論	理学療法（理学療法士）の歴史・概念を学び、さまざまな活動分野で理学療法士が社会に対して果たす役割と課題について理解する。	1前	30	2	○			○			○	○
38	○			基礎理学療法学Ⅰ	理学療法士として日常生活動作の障害をとらえるために、各動作の特徴を学ぶ。また、理学療法の中心となる運動療法について学ぶ。	1前	30	2	○			○			○	
39	○			基礎理学療法学Ⅱ	各種疾患の概略を知り、理学療法を行う上での評価・治療との関連性を学ぶ。	1後	30	2	○			○			○	○

(医療専門課程 理学療法学科) 2024年度															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
40	○		研究方法論	研究の意義や研究論文を適切に読み解く能力を修得する。さらに、エビデンス（根拠）に基づく理学療法実践の展開力を身に付けるため、研究の基礎学ぶ。	3後	30	2	○			○		○		
41	○		理学療法管理学	リハビリテーション部門における組織構造を理解し、管理という視点から業務に対する理解を深める。また、質の高い理学療法を提供するため、病期や疾患に応じたリスク管理を学ぶ	2後	30	2	○			○		○		
42	○		理学療法評価学Ⅰ	理学療法を行う上で必要不可欠な評価の意義を理解する。この講義では一般的な評価事項やバイタルサインについてその目的・具体的な手技・進め方を学ぶ。	1前	30	2	○			○		○		
43	○		理学療法評価学Ⅱ	理学療法評価の意義、検査・測定法について、その目的・具体的な手技・進め方を学ぶ。得られた評価結果のとらえ方を学ぶ。	1後	30	2	○			○		○		
44	○		理学療法評価学Ⅲ	中枢神経疾患の病態を把握するための評価について学ぶ。また、中枢神経疾患に合併し、理学療法を行うにあたって問題となる言語聴覚障害・高次脳機能障害について理解し、その評価について学ぶ。	2前	30	2	○			○		○		
45	○		理学療法評価学演習	これまでに学んできた理学療法評価の意義・手技を復習し、各疾患に対しどのように評価を実施していくかを具体的に学ぶ。そして、評価結果の統合と解釈に基づき、治療への展開していく過程を理解する。	2後	30	1		○		○		○	○	
46	○		理学療法評価学実習Ⅰ	理学療法士が運動器の評価として行う関節可動域の検査・測定法である「関節可動域測定法」・「形態測定」の意義、評価を行う際に必要な手技を学ぶ。	1後	45	1			○	○		○		
47	○		理学療法評価学実習Ⅱ	理学療法士が運動器の評価として行う筋力の検査・測定法である「徒手筋力検査法」・「整形外科的テスト」の意義、評価を行う際に必要な手技を学ぶ。	2前	45	1			○	○		○		
48	○		理学療法評価学実習Ⅲ	これまでに学んできた理学療法評価の意義・手技を確認し、臨床の場面で実践できる応用力を身につける。	2後	45	1			○	○		○		
49	○		運動療法学	理学療法の3本柱の一つである運動療法について、動くと言うことを課題にして関節ならびに筋の特性を学び、理学療法対象疾患の運動療法について理解する。	1後	30	2	○			○		○		

(医療専門課程 理学療法学科) 2024年度															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
50	○		物理療法学	物理療法に必要な知識を学ぶとともに、各機器の物理学的特徴や、生理学的な作用等を理解する。	2前	30	2	○			○		○		
51	○		物理療法学実習	物理療法に関する知識を深めるとともに、治療上必要とされる基本的な知識・技術を学び、また実際に経験することで、各種療法の特徴を理解し、臨床応用する力を身につける。	2後	45	1			○	○		○		
52	○		義肢装具学	義肢装具の目的、名称、形状などを理解する。実物を利用しながら、各種義肢装具への理解を深める。	2前	30	2	○			○		○		
53	○		義肢装具学実習	義肢装具の臨床的適応について学ぶ。実際に装着する等の経験やデモンストレーションを通して理解を深める。また、チーム医療として義肢装具士の役割について理解する。	2後	45	1			○	○			○	
54	○		日常生活技術学	日常生活活動（ADL）の定義・概念・目的・方法などを学び、代表的なADL評価方法についてその内容・適応を理解する。	1後	30	2	○			○		○	○	
55	○		日常生活技術学実習	日常生活技術学で学んだ基礎知識をもとに、実際の動作方法や介助・練習指導方法を理解する。また、各疾患の特徴を踏まえた評価と治療の展開のための基本的な考え方や方法を学ぶ。	2前	45	1			○	○			○	
56	○		理学療法治療学各論Ⅰ	運動療法学で学んだ基礎知識及び基本的な運動療法をもとに、整形外科疾患に対する基本的な運動療法の定義、目的、注意事項、運動療法について学ぶ。	1後	30	2	○			○			○	
57	○		理学療法治療学各論Ⅱ	運動療法学で学んだ基礎知識及び基本的な運動療法をもとに、中枢神経疾患に対する基本的な運動療法の定義、目的、注意事項、運動療法について学ぶ。	2前	30	2	○			○		○		
58	○		理学療法治療学各論Ⅲ	末梢神経疾患・筋疾患等で治療対象となる疾患の特徴を理解し、理学療法を行う為の評価・治療の展開について学ぶ。	2前	30	2	○			○		○	○	
59	○		理学療法治療学各論Ⅳ	内部障害の理学療法について、循環器疾患・呼吸器疾患・代謝性疾患を取り上げ、必要な生理学・病理学を理解し基本的な検査・評価・リスク管理・運動療法を理解する。	2後	30	2	○			○		○	○	
60	○		理学療法治療学各論Ⅴ	内部障害の症例を通し、理学療法プログラムの立案方法について学ぶ。	2後	30	2	○			○		○	○	

(医療専門課程 理学療法学科) 2024年度															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
必修	選択必修	自由選択													
61	○		理学療法治療学実習	各疾患の理学療法・処置について、実習を通じて知識・技術を学ぶ。	2後	45	1			○	○		○		
62	○		理学療法治療技術学Ⅰ	基礎医学、臨床医学の知識を確認し、理学療法技術の基礎・応用を学ぶ	3後	60	4	○			○		○		
63	○		理学療法治療技術学Ⅱ	基礎医学、臨床医学の知識を確認し、理学療法技術の基礎・応用を学ぶ	3後	60	4	○			○		○		
64	○		理学療法治療技術学Ⅲ	これまで学んできた、理学療法に関する知識・技術を確認し、一層の習熟と発展を図る。	3後	60	4	○			○		○		
65	○		地域理学療法学Ⅰ	地域リハビリテーションチームの一員として必要な他部門との連携及び全般的なシステムについて学ぶ。施設（医療・介護等）での職業倫理と管理について理解する。	1後	30	2	○			○		○	○	
66	○		地域理学療法学Ⅱ	地域リハビリテーションにおいて必要な、医療・保健・福祉との連携、及び諸制度について理解する。地域リハビリテーションシステムの中で、理学療法士が果たすべき役割と実際を捉え、今後の課題と可能性を探る。	2前	30	2	○			○		○	○	
67	○		基礎理学療法学臨床実習	理学療法士の対象者への対応等をチームの一員として見学する。その中で、「見学」の仕方を学び、理学療法の機能・役割を理解し専門家としての態度や対応方法を育む。また、上級学年で学ぶ専門知識や技術を効果的かつ有意義に習得できるようにする。	2後	45	1			○		○	○	○	
68	○		理学療法評価学臨床実習	臨床実習指導者の指導・監督の下で「見学」「協同参加」「実施」の流れを重視し、理学療法における検査・測定の実験を積む。	2後	180	4			○		○	○	○	
69	○		理学療法総合臨床実習Ⅰ	臨床実習指導者の指導・監督の下で「見学」「協同参加」「実施」の流れを重視し、理学療法評価から障害像の把握、理学療法までを総合的に経験する。	3前	315	7			○		○	○	○	

(医療専門課程 理学療法学科) 2024年度															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
70	○			理学療法総合臨床実習Ⅱ	臨床実習指導者の指導・監督の下で「見学」「協同参加」「実施」の流れを重視し、理学療法評価から障害像の把握、理学療法までを総合的に経験する。	3前	315	7			○		○	○	○
71	○			地域理学療法学臨床実習	通所リハビリテーションの実習を通し、地域リハビリテーションに関する制度を学び、理学療法士が担う役割を理解する。	3後	45	1			○		○	○	○
合計				71 科目		3,120 単位時間(144 単位)					

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件： 全ての科目を合格したものに行う卒業試験で判断する。	1学年の学期区分	2期
履修方法： 本校の授業科目はすべて必修とし、当該年度で実施する科目の試験にすべて合格することが進級・卒業の要件である。	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。